

人口の動き
人口 4,062 人
世帯数 955 世帯
出生 4 人
死亡 4 人
転入 11 人
転出 4 人

(8月末住民登録人口から)

ひがし 広報 しらかわ

第 155 号

発行

東白川村役場総務課
岐阜県加茂郡東白川村
TEL (東白川) 1111

印刷

中部印刷株式会社

昭和 47 年 10 月 10 日 発行

みんな
気をつけて

事故は一瞬のゆ
だんから。

こどもたちも交
通ルールを学び、
守ります。

運転者も初心を
取りもどし、事故
のない安全村を築
きたいものです。



—五加小学校の交通教室—

第九回消防ポンプ操法競技会

規律とスピードの限界にいどむ

優勝は第二分団（総合）と第七ポンプ

さる九月十七日、本村消防団の

第九回消防操法競技大会が神土小

学校々庭で行なわれ、総合では第

二分団、ポンプ操法では第七ポン

プが優勝しました。

を盛りあげ、有効適切な消防活動を行なう目的にそつて、きびきびと行なわれ多くの来賓、見物者たちからさかんな拍手が贈られました。

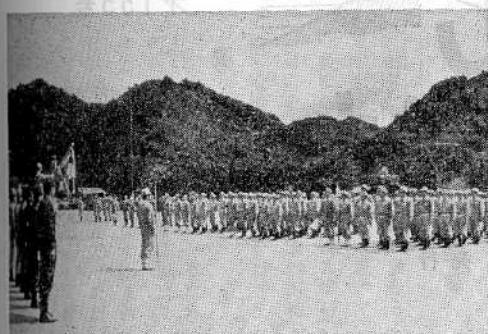
この大会には、二百名の団員、自動車ポンプ二台、小型動力ポンプ十六台が参加、日ごろの訓練の成果を競つたものです。

団員として統一したポンプ操法

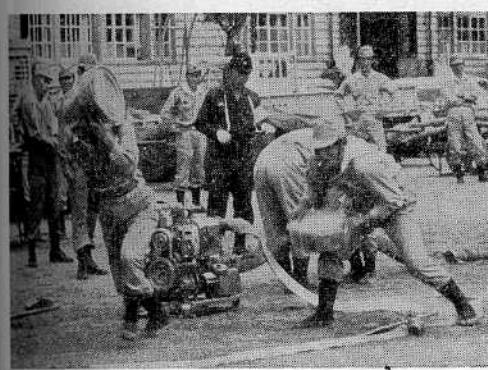
競技は、一台の小型動力ポンプを五人一組となつて、整列から放水、撤収までの決められた操法を制限時間内にいかに規律よく行なうか、十二人の審査員による総合点によって順位が決まりました。

しかし、年々レベルがあがつてきている本村の操法は、各チーム一点差を争う激戦となりましたがそれぞれ次のように分団、ポンプの入賞が決まり、団長から表彰を受けました。

なお、自動車ポンプは操法のひろうのみ行ないましたが、十一月十九日本村で開催される郡消防操法（自動車）競技大会めざして訓練が続けられています。



↑ 整列した 200名の消防団員



↑ スピードと位置、ホース延長が決め手



↑ 放水、この間まで95秒がタイムリミット

規律とスピードの限界にいどむ

分団の部

優勝 第一分団（五加）

二位 第一分団（神土）

三位 第三分団（越原）

小型動力ポンプの部

優勝 第七ポンプ（第二分団）

栗本隆、今井和好、伊藤澄雄

栗本忠一、古田徳

（九月）

一位 第一分団（第一ポンプ）
島倉正量、村雲次郎、安江徳
行、有田享、安江誓

三位 第三分団（第六ポンプ）
安江康助、安江隆、安江義勝
島倉完、大坪兼行

四位 第一分団（第十四ポンプ）
安江力男、今井準、池井戸勝
山口直視、古田晋作

五位 第三分団（第十二ポンプ）
安江真一、安江竹良、安江茂
安江勝彦、桂川久巳

（上親田）安江伸子、康
助吉子、長女
（加倉尾）安江由起子、成
喜長女
(大明神)田口真紀政、司
幸子、長女
（平）田口清隆、武
秋子、長男
（上親田）柏本
（平）(上親田)
（上親田）(上親田)

誕生おめでとうございます。

人の動きあれこれ



おくやみ
申しあげます

（九月）

顛顛晴造	(柏本)
安江吉一	(平)
安江忠一	(上親田)
笠俣しやう	(柄山)

共同募金は十月一日から

十万三千四百四十八円

ことしの共同募金は、十万五千

被災地へ義援金

東濃四七・七豪雨

ことしの目標は十万五千円

盛りあげよう助け合いの心

赤い羽根共同募金運動が、ことしも十月一日から始まりました。

だれでもしあわせでありたいこの願いは、全国民的なものであります。

社会連帯の精神に基づいて達成できることの願いです。

最近五年間の村の募金状況

昭和四十二年

八万八千三百十五円

昭和四十三年

八万九千九百四十一円

昭和四十四年

九万四千二百七十九円

昭和四十五年

九万七千九百三十三円

昭和四十六年

八万八千三百五十五円

昭和四十二年まで戸別に割り当てられていた募金も、昭和四十年から戸別わりで廃止してきました。

昭和四十二年まで戸別に割り

つかり皆さんの中に定着してきました。

議会第三回定期例会

教育委員選任を可決

教育長には田口氏が就任

任期満了（九月三十日）に基づいて行なわれたものであります。

名女大 安江理事が文部大臣表彰

文部大臣表彰

実績を持つベテラン委員としてこ

んども選任され、この十月一日か

ら新陣容でスタート、今後の教育

行政に大きな期待が寄せられています。

なお、九月二十七日に行なわれ

た教育委員会において決まった委

員の編成は次のとおりです。

任期満了（九月三十日）に基

づいて行なわれたものであります。

任期満了（九月三十日）に基

づいて行なわれたものであります。

任期満了（九月三十日）に基

づいて行なわれたものであります。

任期満了（九月三十日）に基

づいて行なわれたものであります。

任期満了（九月三十日）に基

ことしの七月東濃地方を襲った豪雨は、四七・七豪雨と名付けられ、明智町はじめ多くの町村に大きな被害をだしました。

本村でもさきの八・一七災害の時には多くの人たちからあたたかく手がさしのべられ感激しました。

また、ほかに職場、団体、グループでの募金も受付けていますので、皆さんのご協力をかけています。

この募金は、養護、養老施設、母子寮、保育所、精神障害者施設、更生保護施設、子どもの遊び場、社会福祉協議会などへ配分されます。

こんどは私たちが救いの手をさしのべる時と、罹災者支援金をお願いしたところ、十四万四千九百九十五円というご協力をいただきました。

さっそく県庁、厚生省話題を通じて被災地へお届けしました。

お礼をかねて報告します。

たすけあいの広がりを



共同募金

円の目標をかかげて、組長さんを通じて協力を呼びかけています。

この大会は、十月五日東京国際劇場において、天皇、皇后両陛下のご臨席を得て行なわれました。そして全国の教育振興で功労のあるたかだちの表彰も行なわれ安江さんもはれの功労者として選ばれたものです。

その栄誉に対して、村ぐるみの手を贈りたいと思います。

ふるさとへの便り

広報はふるさとのかおり

がんばる新卒者の声を紹介

すが、あまりいい文章じやなくてごめんなさい。

大垣市木戸町二〇〇 安江 美代子

さとはいいなをと思いました。
ふるさとの山にむかいて言うことなし、ふるさとの山はありがたきかな。という詩がありました。
何だか心境がわかるような気がしました。

広報を送つていただきありがとうございました。
ぼくは、広報については中学生の時いつも読んでいましたので、離村した四月五月は、力行館の高校生となつて村を離れる時にたぶん送つてくださるだろうと思つていました。

生活に早く慣れるということで、ふるさとのことを考へるひまはありませんでした。

岐阜市鷺山三丁目

安江 成豪

ことしの四月、九ヵ年の義務教育を終えて、進学に就職にとふるさとを離れていた若者たち。村ではことしもその若者たちへふるさとのおののする広報を送りました。

ふるさとのことを知り、ふるさとへの愛着心を育ててほしい、そして社会の荒波に負けないりっぱな若者に成長してほしい、そんな願いをこめてことしも送つたものです。

それにこたえて、心あたたまる便りが届いています。

今月から紹介していくといいますが、その若者たちへ激励の手紙を係までお寄せいただけませんか。

私が大垣にきて四ヵ月と少したちました。

九年間の義務教育を終えて、はじめての社会へと再出発したのであります。

会社とか、高校などは、全国から集まり、ひとつになつてまたこの中から新しく友だちができています。

大垣にきて一週間ほどは、ホーミックにかかつてしまい、仕事をしている時とか、ふとんの中にいる時などに少し涙がでてしましました。

ふるさとが、友だちからなれてひとりぼっちになつてしまつた。あまりにも悲しい時は、ほんと

うに家に帰りたいとつくづく思いました。
でも私は、同じ学校にきた人がふたりいます。
ほかの人はひとりか、ふたりくらいです。

なやみごとは、先ほいなどに話すこともあります。
このくらいで書くことはやめました。

全部を読み終えて、やはりふるさとはいいなをと思いました。
ふるさとには、行政相談所を開設のため、行政相談制度について広く国民皆さんの理解と認識を深めるため、行政相談週間を設けてこの制度のいっそその発展と、行政の民主的な運営をはかることになりました。

村でも週間中の行事のひとつとして行政相談所を開設します。
役所仕事についての不平、不満心配ことなどどんな小さなことでもこりりょなく、相談においでください。

相談には、行政相談員の松岡正平さんがあたりますが、相談についての秘密は固く守られます。

行政相談開設の日程は、次のとおりです。

十月二十日 午前九時から午後

九時ないしです。

第三回文化講演会のお知らせ

恒例となつた文化講演会を、期日十一月二十二日(勤労感謝の日)

ことしもつぎのよう開催しま

す。

当日は多数受講ください。

講師 藤原弘達氏

場所 東白川村体育館

聞きます不平不満

東白川村役場、村民相談室

三時まで

便利な県民手帳

申込みは十五日まで

行政管理庁では、行政相談所を開設

行政相談所を開設

行政管理庁では、行政相談制度について広く国民皆さんの理解と認識を深めるため、行政相談週間を設けてこの制度のいっそその発展と、行政の民主的な運営をはかることになりました。

村でも週間中の行事のひとつとして行政相談所を開設します。

役所仕事についての不平、不満心配ことなどどんな小さなことで

もこりりょなく、相談においでください。

県統計協会の毎年発行している

県民手帳の昭和四十八年版をことしも組長さんを通じて申込みの受け付けを行なっています。

県勢が一日でわかる各種統計資料、日常生活に役立つ記事などを

料編を別冊として、日記風のメモ

手帳として便利なものです。

価格は一冊百二十円、申込み期

限は十月十五日までに組長さん、あるいは役場総務課内統計係まで